

令和 7 年 9 月第 4 回真庭市議会定例会 市長諸報告

(令和 7 年 9 月 9 日)

皆様、おはようございます。本日ここに、令和 7 年 9 月議会定例会を招集しましたところ、議員の皆様には参集いただき、誠にありがとうございます。

それでは、6 月定例会での所信表明以降の真庭市政の主な動きを中心に申し上げます。

(地域防災力の強化)

この夏は全国各地で命の危険を感じるほどの猛暑が続き、気温が 40 度を超えるなど、異常気象が日常化しています。真庭市内でも 7 月に久世地域で観測時点では県内史上最高となる 40.3 度を記録し、先月は、管内における熱中症の症状による救急搬送者が昨年度に比べて倍増しています。

また、線状降水帯が各地で頻繁に発生し、水害など様々な災害を起こしています。先週末には台風 15 号の来襲がありましたが、本格的な台風シーズンはこれからです。豪雨災害から命と暮らしを守るためには、日頃から気象情報に関心を持ち、早めの避難や地域での声かけなど主体的な判断と行動が大切です。市民一人一人が自分や家族の安全を守る行動意識を高めるとともに、備蓄品の十分な備えもお願いします。災害時に孤立する可能性のある集落では、自主防災組織などを中心とした自助・共助の活動が大事であることも繰り返し申し上げます。市や消防団、地域の皆様が一緒になって地域の防災力を高めてまいりましょう。

(総合戦略の策定)

先月国が発表した今年 1 月 1 日時点の日本人人口は 16 年連続の減少ですが、東京都のみが増加し、依然として深刻な少子化と東京一極集中が進んでいます。国が 6 月に閣議決定した「地方創生 2.0 基本構想」は、これまでの人口減少の抑制に加え、人口減少を正面から受け止めた適応策や若者・女性活躍を目指す政策パッケージが示され、総合戦略は年内に策定される予定です。現在策定を進めている真庭市総合戦略は、人口減少対策をとりつつも、人口が一定程度減った社会を前提にした対策など両面での議論を深めています。地方を重視した石破政権の後、どのような政権になるのか、国の動向もしっかり注視してまいります。

(旧久世校地跡地の利活用)

旧久世校地の施設を活用した岡山大学の真庭サテライトキャンパスの整備については、岡山大学と共同記者会見を実施し、現在、県内の大学を含め建築を学ぶ学生のワークショップ活動の拠点として準備を進めています。来週には市内関連企業・団体の協力を得て「森林・木材・木造建築に関するワークショップ」を敷地内で開催し、あわせて岡山大学とともに開所式も予定しています。真庭をフィールドとした若者の拠点として、地域産業の振興や高大連携の推進等により地域活性化を図る事業を展開していきます。

また、久世エリアにおける公共施設の最適化基本方針を具体化するに当たり、外部有識者や市内関係団体で構成する検討組織を設置し、今年度中を目途に整備方針を示します。

なお、国道 313 号線の交通渋滞の緩和を図るため、現在、アクセス整備に必要な測量や詳細設計等を進めており、周辺を含め道路環境の改善を目指します。

(施設使用料の見直し)

今年度、「使用料・手数料見直し基本方針」に基づき、受益者負担の公平性等の観点から踏まえて進めていた見直し作業により、指定管理者による管理施設を含む 80 施設の使用料を改正する条例案を本定例会に提出しますので、ご審議をお願いします。

(平和問題への取組)

戦後 80 年を迎えた本年、真庭市では悲慘な戦争の歴史から得た反省と教訓を次世代につないでいくという姿勢に立ち、平和問題に取り組んでいます。広島平和記念日(原爆の日)に市内小学生親子 11 組を派遣した「ヒロシマ平和学習受入プログラム(全国こども平和サミット)」には、今年度から JR 西日本の株主優待券も活用し、参加親子が学んだ平和の尊さや命の大切さを「平和新聞」にまとめ、学校等で広く展示して多くの市民が平和について考える契機とします。

また、新たに市内小学生が蒜山原の近代戦争遺跡を巡る「蒜山平和学習」事業も 6 月から始まり、今年度は市内 5 校の児童が参加予定です。来月には関係者が戦争遺跡周辺を整備するイベントも開催予定で、真庭市全体で平和への意識を高める取組を進めます。

それでは、市政の現状と最近の成果、今後の取組について、その主なものを報告いたします。

1 つ目は、みんなではぐくむ子育ての実現と、安心とつながりの中で人が育つまちづくりです。

(こどもはぐくみ応援プロジェクト)

すべての子どもたちは、一人一人がかけがえのない存在であり、生まれながらにして幸せに生きる権利を持ち、その権利は誰にも奪うことはできません。子どもを「権利の主体」とする意識を育み、地域全体で子どもの健やかな成長を支えるため、このプロジェクトを力強く推進しています。そして、その具体的な取組は市民の皆様にわかりやすくお伝えすることが大切であり、今年度、当初予算と 6 月補正予算に計上して展開している全 89 の主なプロジェクト内容をまとめたチラシを作成し、先月、市内全戸に配布しました。経済的な負担軽減や専門職による相談支援、安心できる子育ての環境整備など支援策を分かりやすく紹介していますので、是非ご活用ください。今後も引き続き丁寧な情報発信に努め、子育て支援への理解を深めてまいります。

(子どもの居場所の確保)

7 月と 8 月は夏季の猛暑対策として、市内各地域の公共施設を活用した屋内型の「夏やすみあそび広場」を巡回開催し、多くの子どもが利用しました。こうした場を活用して保護者から子育てニーズの把握にも努めています。また、湯原地域では「二川みらいづくりセンター」で真庭市家庭教育支援チームが湯原地域学校協働本部と協力して「遊びの日」を開催し、勝山地域では「新町どんぐり公園」にパーゴラを設置して暑さ対策を施し、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに努めています。さらに、市議会

においても市在住、在学の中・高校生向けに空調の効いた議場を自習室として開放するなど、各方面で取組が進んでいます。

(幼児教育・保育環境の充実)

今年度、少子化や施設老朽化の現状を踏まえて進めている市内公立こども園・保育園の整備計画は、先月中旬に骨子案を取りまとめたところであり、今後、「真庭市子ども・子育て会議」などで意見をいただきながら、策定を進めてまいります。

(高校再編への対応と魅力化への取組)

再編対象となった高校の魅力向上を目指し、県教育委員会のアクションプランに基づき議論しているプロジェクト会議は、今月4日に3回目が開催されましたが、この会議は活動期限が不明確で強制力も無く、議論の先行きが不透明のため、市としては具体的に実効性のある議論と明確なプロセスを構築し、魅力ある高校づくりが実現されるよう県教育委員会に働きかけています。

来週には、県教育委員会を招いた市主催の「真庭の高校の未来を考える会」を開催予定であり、引き続き、市として主体的に議論の場を設けながら地域の声の把握に努め、高校の目指すべき姿を市民と共有しながら進めてまいります。

こうした中、市教育委員会では、今年度から次世代を担う若者の視野を広げ、学びの機会と選択肢を増やす支援として短期海外留学事業を高校と協働して進めており、7月には市内高校に通う15名の生徒が2週間、オーストラリアに留学しました。学んできた成果の報告会も開く予定で、この取組が真庭の高校教育の魅力を高め、生徒の可能性を広げるものと期待しています。

(全国・県学力状況調査)

7月下旬に公表された調査結果から、市全体で学力の定着に課題があることがわかり、特に算数・数学は全ての学年で全国・県を下回る結果でした。教育委員会では先月、この深刻な結果を各学校と共有し、授業と家庭学習を改善して学習定着につながる時間を確保していくことを確認しています。家庭においても子どもが学習習慣を身に付ける環境づくりに努められるよう呼びかけをします。

一方、真庭市の子どもは「地域や社会をよくするために何かしてみたい」「困っている人がいたら進んで助ける」と回答した児童生徒が、県や全国に比べて多く、年々伸びていることもこの調査でわかりました。7月に勝山駅の線路に転落した高齢男性を救助した勝山中学校3年生が「岡山県善行賞」を受けるなど、嬉しいニュースもあります。真庭の子どもが豊かな心と確かな学力を持って成長する、「みんなではぐくむ子育て」を学校・家庭・地域が一体となって実現してまいりましょう。

(図書館の振興・図書館を通じた学び)

市立図書館では、「戦後80年企画」として、「食」を通じた日本の近代と戦後80年を振り返りながら暮らしの豊かさを考える連続講座を7月から開催しています。また、公共図書館と学校図書館の連携を強め、公共図書館から学校図書館への本の搬送作業を効率的に見直すなど、子どもの読書環境と学びの質の向上に努めています。今後も利用者や子どもたちの学びを支える図書館を目指してまいります。

2つ目は、支え合い、いきいきと誰もが活躍でき、安心して暮らし続けることができる真庭です。

(SDGs・共生社会の推進)

岡山市内で先月開催された「おかやま SDGs フェア」に市も主催者の一員として参加し、SDGs の取組紹介やサステナブルな商品の販売に加え、県内 5 都市が連携した「おかやま SDGs オーダーメイドツアー」に関する展示を行うなど、広く来場者に PR しました。同月にはイオンモール岡山で開催された「未来わくわく SDGs フェスタ」にも参加し、普及啓発に取り組んでいます。引き続き、市内外に向けた脱炭素への意識醸成や環境・社会問題を「自分ごと」として考えることができる教育に取り組み、SDGs 推進の底上げを図ってまいります。

(大阪・関西万博を通じた取組)

シグネチャーパビリオンの一つ「EARTH MART」の茅葺き屋根に提供した蒜山の「茅」をきっかけに、阿蘇地域などと連携したイベント「未来をつむぐ、草原・湖と人の関係性」を先月 14、15 日の 2 日間、万博会場で真庭市主催として開催しました。茅・草原をテーマとしたトークセッションやアート作品等の展示、ワークショップなどを通じて茅産地である蒜山地域の魅力や山焼きなど草原保全の取組を「生物多様性」「循環」「未来」をキーワードに発信したところであり、このイベントを一過性のものとせず誘客につなげるため、アフター万博イベント等の企画や産地間連携の取組を検討し、引き続き茅や草原の魅力、自然共生の取組を地域内外に発信してまいります。

(女性が輝く社会の実現)

次年度に向けた「男女共同参画推進基本計画」の改定にあたり、公募参加の延べ 24 名の市民とのワークショップを先月開催し、性別に関係なく誰もが活躍できるまちの姿と、その実現に向けた課題について考えました。また、7 月下旬から実施している市民や各種団体へのヒアリングを通じて様々な意見を丁寧にお聞きし、計画に反映してまいります。女性が輝いてこそ元気で魅力ある地域になります。また、市民一人一人が個性と能力をいかし、活動量を高めれば地域に活力が生まれ、持続可能な地域になります。このような姿勢で基本計画を改定してまいります。

(普遍的人権感覚を持った国際化の推進)

人類は幾多の犠牲と試練を経て、外国人居住者も私たちと同じ人間として尊厳を持ち、一人一人の人権を平等に擁護する人権思想と制度を作るに至りました。互いを尊重し合う多文化共生の理念を基盤とし、増加する外国人居住者が安心して暮らし、困りごとに対応できる体制づくりを進めるべく、部局横断的なマトリックス会議を庁内に設置して議論を深めてまいります。また、未来を担う子どもたちが世界とつながり、国際感覚を身につけていくことも欠かせません。人権と多文化共生の視点を重んじながら持続可能な地域づくりを推進してまいります。

(認知症月間の取組)

今月の「認知症月間」にあわせ、真庭市も「まにわオレンジ月間」として認知症への正しい理解を深める取組を進めます。来週、認知症疾患医療センター(向陽台病院)と協働で「認知症セミナー in まにわ」を開催するとともに、若い世代から理解を深めるため、

真庭高校で栽培したオレンジ色の花を市内グループホームと勝山高校に植栽する「オレンジガーデニングプロジェクト」や認知症講座の実施など、認知症への正しい理解の普及・啓発に取り組んでまいります。

(産婦人科医療体制の充実と医療水準の引き上げ)

岡山県北西部では分娩可能な医療機関が1機関しかなく、産婦人科を維持するための医師確保に苦慮している状況です。また、県内に6機関ある周産期母子医療センターは県北に1機関しかなく偏在があり、この医療体制の格差を是正し、県北西部で唯一の産科である「落合病院産婦人科」を維持するため、先月、医師確保と県北西部の周産期母子医療体制整備の検討を求め、岡山県知事に要望書を提出しました。県と協力しながら、県北で安心して妊娠、出産、子育てができる環境整備を進めてまいります。なお、「健康に生きること」は基本的人権でもあります。県の責任において、県北の医療水準が県平均の半分程度でしかない現状を少しでも改善していただかなければなりません。

(救急安心センター事業#7119)

急な病気や怪我を負った際、救急車の要請や早急な病院受診の必要性など、判断に迷った時に専門家からアドバイスを受けることができる電話相談窓口「救急安心センター事業#7119」の取組を岡山市が中心となり、参加自治体と連携して来月1日から開始します。なお、本来は「小児救急医療電話相談」と同様に岡山県が県内全域を対象にした制度を作るべきであり、市長会として県に要望しています。

3つ目は、「にぎわいにあふれ豊かさを実感できる真庭」です。

(振興局の取組)

蒜山地域では、郷原漆器の新作「酒椀」が、グリーンブルヒルゼンで展示販売され好評を得ています。蒜山校地をはじめ県内の高校生が木地づくりから漆塗り、漆掻きなど漆器づくりにも挑戦し、こうした取組が地域の伝統工芸の継承と人材育成につながることに期待します。来月開催予定の「蒜山高原マラソン」はベアバレースキー場を発着点とし、起伏に富み、蒜山三座と大山が一望できる蒜山の自然を満喫できるコースを計画しています。

北房地域では、先月初めの6日間、同志社大学の分室「水風の庭」で、地元小・中学生延べ約200名と大学生が勉強や遊びを通じて交流を深め、小・中学生は大学生に地域のことを教え、伝えることで、自分たちの住む地域への愛着と誇りを育むことができた素晴らしい時間となりました。また、荒木山西塚古墳の発掘調査を記録したドキュメンタリー動画「西の明日香村・北房の挑戦」をお盆期間に北房文化センターで上映し、帰省者を含めた多くの方が貴重な文化遺産を知り、地域を深く認識する良い機会になりました。

落合地域では、7月に開催した「落合納涼花火大会」では、多くの地元出店者が屋台を並べ、今後の地域づくりを盛り上げることにつながりました。また、今月下旬には地元自治会が川東公園の彼岸花の開花時にあわせたマルシェを開催予定で、これに合わせて落合・勝山・久世の3地域にそれぞれ配置した地域魅力化コーディネーターを中心に、りんくるラインやJR姫新線を利用したイベントを地域と協力しながら実施します。こ

うした取組を通じて、世代や地域を超えた交流の輪を広げ、落合の活性化に努めてまいります。

久世地域では、先月開催された「リバーサイドフェスティバル」に多くの市民有志が出店し、地元の子もたちのステージイベントや迫力ある花火に市民や帰省客で盛り上がりました。また、交流定住センターでは帰省者が多いお盆の期間中、移住相談に力を入れて取り組みました。

勝山地域では、再出発した「郷宿 1764」でのイベントを中心に市内外の人が交流し、新たなにぎわいが生まれ、地域の魅力を再認識する場となっています。また、外国人目線の優れた日本のプロダクト等を表彰する「クールジャパンアワード 2025」に、「勝山の暖簾」がインバウンド部門・アワード賞の1つに選ばれ、今月3日、大阪関西万博の会場で表彰されました。長年にわたるまちづくりが高く評価されたものであり、この受賞も弾みにしながら、町並み保存地区のさらなる活性化に取り組んでまいります。

美甘地域では、美甘の子もたちの未来を語る意見交換会が地域の方を中心に先月開かれ、また、美甘こども園の小学校への移転に向けた設計も始まるなど、地域と子どもの交流が深まる環境を整えていきます。クリエイト菅谷では、今後の施設の在り方を調査するサウンディング調査を開始し、先月は事業者を対象とした現地説明会を開催しました。施設の在り方や管理運営方法などをヒアリングしながら、今後の方向性を見定めていきます。

湯原地域では、温泉の配湯施設が老朽化しており、万一の事故を未然に防止する必要があることから調査に着手し、この結果をもとに地元関係者等と協議の上で施設の具体的な整備方針を検討してまいります。先月から開催中の「美作三湯芸術温度」は、温泉宿泊施設にアーティスト作品が展示されて来訪者を楽しませており、温泉地の文化価値を発信しながら 2027 年に再び開催される「森の芸術祭」への気運を醸成してまいります。社地区の「^{おみどう}大御堂」耐震補強工事は地域住民が準備した資金と市の補助金を活用し、完成式が7月に行われました。

なお、報告した各地域の動きに加え、久世地域を中心に始まり、市民が主体となって地域を食べ歩き、飲み歩いて交流するイベント「のみーの」の開催が市内全域で広がり、市民が地域の枠を越えてつながってきたことは、合併 20 年を迎えた真庭市として嬉しい限りです。

(まにわ里山留学)

7月から先月まで開催した「蒜山こども源流ステイ」には募集を始めて数日で定員に達するなど短期・中期留学への応募が好評でした。今年度から中和小学校で受け入れた3名の長期留学児童も含め、地域と学校が一体となった取組を進めており、真庭市ならではの里山の暮らしや豊かな自然、多くの人との交流を通じて心を動かすような体験を提供し、定住促進につなげてまいります。

(結婚推進)

インターネット上の3次元の仮想空間を活用し、県内でも初となる新たなスタイル「まにわメタバース婚活」を今月開催します。デジタル世界の出会いに加え、リアルの再会までサポートする方式で、結婚を希望する方々のマッチングを強化します。

(休日の学校部活動の地域展開)

昨年度対象としたバドミントン、陸上競技、吹奏楽に加え、今年度は野球やバレーボールなど 11 の活動に実証対象を拡げています。また、核となる組織づくりとともに人材バンクを立ち上げて指導者やサポーターの登録を行い人材確保にも努めているところであり、引き続き、中学校や指導者などと連携しながら次年度からの展開に向けて取り組んでまいります。

(旧遷喬尋常小学校校舎の整備・活用)

昨年策定した「旧遷喬尋常小学校校舎保存活用計画」に基づき 6 月から調査工事を開始しています。期間は令和 8 年度末までを予定し、この調査結果をもとに専門家を交えて保存修理工事の詳細を検討してまいります。

4 つ目は、「回る経済と脱炭素への挑戦」です。

(生ごみ等資源化プロジェクト)

真庭市くらしの循環センター(愛称：まにくるーん)の本格稼働から 8 か月が経過しました。生ごみの収集量は 7 月が 155 トン、8 月が 157 トンと増え、目標とした月 175 トンに近づいています。プラスチック類や布類など「資源分別」への市民、事業者の協力も進み、6 月以降は可燃ごみを市の施設だけで処理できています。引き続き外部搬出なく処理し、また「まにくるーん」を安定稼働するには市民、事業者の皆様の更なる協力が必要です。改めて分別へのご協力を呼びかけます。

(真庭版農業支援サービス事業体準備室の取組)

「真庭ぶどう」は今月下旬に販売促進フェアを大阪で実施します。今年度は地域事業者の意向を踏まえ、新たに台湾への輸出にも着手します。また、来月には農産物や乳製品だけでなく酒やジビエ、加工品等、広く地域産品を対象に関西圏のバイヤーやホテル・飲食店関係者を真庭市に招いた商談会を開くなど取組を拡充します。産地や生産者のこだわり、マーケットインの観点などを重視し、来年度の事業体設立を見据えながら関係企業・生産者等とともに真庭の農産品の魅力を発信し、販路開拓や高付加価値化を目指してまいります。

(森林・林業の活性化)

持続的な森林経営の実現に向けた「協業」による市有林管理に向けて、服部興業株式会社と「真庭市有林を核とした林業振興の取組に関する協定」を今月 2 日に締結しました。民間事業者が持つ森林経営の知見・技術の共有と役割分担により周辺民有林も含めた市有林の計画的な森林整備に向けて、森林組合等の林業事業体とも連携しながら取組を進めてまいります。

(地域脱炭素・再生可能エネルギーの導入推進)

電力の地産地消と地域エネルギーの自給率向上を目指す地域新電力会社「まにわっと電力株式会社」を先月 5 日に設立し、設立総会と式典を 28 日に開催しました。この会社設立を起点とし、再生可能エネルギーによる経済循環と地域活性化を一層進めてまいります。また、市内企業等と連携した「脱炭素真庭万博」の開催や、「脱炭素市民会議」を今月下旬から順次開催し、市内企業や市民の脱炭素への関心や参加意識を高めてまい

ります。

(デジタル地域通貨まにこいん・まにあぶり)

5月にふるさと納税ができる機能を「まにあぶり」に実装し、米子自動車道蒜山高原サービスエリア上り線で「現地決済型ふるさと納税サービス」を7月18日から開始し利便性を高めています。その場でアプリからふるさと納税をすることでポイントが付与され、地域特産品の買い物やレストランの食事に使えます。中国地方のサービスエリアやパーキングエリアでは初の取組です。

また、「まにこいん」を使い物価高騰の影響を受けた市民と事業者を応援するキャンペーンを8月1日から9月末まで実施しています。市民には50,000ポイントを上限に利用額の5%分を、事業者には50,000円を上限に売上額の5%を還元し、2つのキャンペーンを同時に行うことで、流通量拡大に加えて取扱店舗の加入促進につながる相乗効果にも期待しています。

市役所では「まにあぶり」を市民アンケートや市内を巡るスタンプラリーなどにも利用し、市民の声を直接聴くことが便利になり、ユーザー側の利便性も高めています。今後、幅広い用途に対応したこのアプリを効果的・効率的に活用していきます。

市民サービスと事務事業の見直し・改善

必要なIT人材の確保・育成が自治体単独では困難となる中、先月12日、本市を含む一般社団法人岡山中央総合情報公社を構成する7市町村が「地域連携によるデジタル活用の推進に関する覚書」を締結し、今後、同公社を核に改革・見直しを進める検討組織を立ち上げます。共同利用の仕組みをいかした効果的かつ効率的な行政経営に取り組んでまいります。

また、先月20日から、市役所窓口で住民票、戸籍謄本等の証明手数料を「まにこいん」で支払えるようになりました。来月1日からは各振興局窓口でも支払い可能となり、引き続き、市民の利便性向上に努めてまいります。

物価高騰対策

物価高騰で多くの事業者が影響を受ける中、地域の医療・福祉を支える重要なインフラでもある医療機関、障がい福祉・介護サービス事業所、私立の保育施設等の運営継続を支援する事業を補正予算に計上しています。

以上、市政運営の状況について、主なものをご報告しました。なお、本定例会では、認定12件、報告2件、諮問1件、条例や補正予算議案など47件、総数62件のご審議をお願い申し上げます。

また、諸議案の内容については、日程に沿い順次説明しますが、慎重な審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願い申し上げ、開会にあたっての挨拶と業務の報告とさせていただきます。